令和７年３月 14 日

令和６年度　とうきょう　すくわくプログラム推進事業　活動報告書

園名	渋谷区山谷かきのみ園
所在地	渋谷区代々木 3-32-13

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

色

＜テーマの設定理由＞

色に興味関心をもち、色を塗る活動も好きな子どもたちである。昨年度に引き続いて同じテーマで取り組むが、今年度は、遊びの環境の一部に色遊びができるコーナーを設けて、個々が自由に色作りを楽しむ過程で探究に取り組めるようにする。

２．活動スケジュール

10 月、色遊びコーナーを保育室に設定する。自由に色作りを進め、自分のこだわりの色や新たな色との出合いを楽しめるようにする。出来上がった色を壁面に飾っていつでも見られるようにする。
自分のお気に入りの色を選んでトレース台に並べる活動をし、一人一人の記録として残す。
少人数での共有の時間、学級全体での共有の時間を設ける。
11 月、遊びの中で秋の色探しを楽しめるように、テラスに拾ってきた自然物をマイクロスコープで拡大して記録できるコーナーを設定する。保育室にも秋の色作りができる色遊びコーナーを設定する。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・絵の具、筆、パレットなどの画材類
・模造紙、障子紙、画用紙などの紙類
・試験管、スポイト、白衣、色水を入れる袋など
・ライトテーブル（トレース台）
・マイクロスコープペン　　・大型モニター　　・パーテーション（板段ボール）

４．探究活動の実績

＜活動の内容＞

活動①：いろ研究所コーナーで色作り

保育室の環境に「いろ研究所」のコーナーを設け、子どもたちが好きな遊びの時間に自由に自分のお気に入りの色を作り、色の名前を付けて飾れるようにした。

活動②：お気に入りの色を並べて友達と共有する

ライトテーブルに自分のお気に入りの色を選んで自由に並べ、画像で記録する。並べて完成させた色について感じたことを少人数で共有し合う時間をつくる。さらに学級全体で一人一人の色を見ながら対話する時間を設け、感じたことや考えたことをお互いに伝え合う。

活動③：秋の園庭の色探し

テラスに設置したマイクロスコープペンで落ち葉の中に秋の色を見付け、画像として記録する。みんなの見付けた秋の色を一冊の本にまとめる。また、思い思いの秋の色をいろ研究所で作ることができるようにし、お気に入りの色を塗って仕上げた色紙を友達と交換し合う。その色紙を使って、本園のシンボルツリーである柿の木の貼り絵を楽しむ。

＜活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり〉

活動①

・自分のお気に入りの色に近づけようと試行錯誤して何回も繰り返し作る姿、偶然にできあがった色を気に入って、思いを込めた色の名前名を付けて喜ぶ姿があり、いろ研究所は子どもたちのお気に入りのコーナーとなった。壁面に出来上がった色を飾って眺められるようにしたことで、友達が作った色や色名にも興味を示し、色を見ながらの対話も広がっていた。

活動②

・友達の話を聞いたあと、肯定的な言葉で素直に応じる姿があった。全体の共有の時間では、「いつもよりたくさんの色がある」「似てるけど違う」「みんなの色は違う特性がある」など、普段はあまり交わされないような気づきのやり取りがあった。

活動③

・秋の色探し、色作りは、よりこだわって自分のイメージに近づけようとしてじっくり取り組む姿が見られた。

・完成した柿の木を見合いながら、色だけでなく柿の木の作り方にも違いを発見し面白がる様子があった。

＜活動の様子＞

５．振り返り

・イメージした色を作る過程で試行錯誤する子、試す中で偶然できた色を楽しむ子など、その子によって探究の仕方が様々であった。色が混ざって変化する様子をじっくり見る姿も見られた。

・昨年度から継続して取り組んできた「色」の探究的な活動で、今年度は日常の遊びの環境に色遊びができるコーナーを設置して、自由に色に親しめるように工夫した。環境設定の段階から教師間で場のつくり方や素材選びについて試行錯誤を重ねた。幼児側からの見え方、環境の捉え方や素材との出合い方を協議することで、より魅力的な環境に近づけることができたのではないか。この話し合いの過程がとても大事であった。更に、自分たちで扱うことができ、簡単に手に取って触れられ、かつ本物らしさが感じられる設定が、子どもたちの主体性を引き出し効果的であった。

・これまで、「やさしい」「さわやか」などの形容詞で色の感じ方を表現してきた子どもたちが、いろ研究所では、自分の知っている事象や言葉と関連付けながら色名を考えることを楽しむことができた。

・肯定的な対話によって自分にしか生み出せないものの価値を実感できたことで、他者や他者が生み出すものに対しても自分と同じように大切に向き合おう、扱おう、とする姿につながったように思う。色の活動だけでなく日常的な遊びや生活の場面でも、子どもたちの心の成長を感じることができた。

以上